

作成日：2022年11月22日

研究協力のお願

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

裂孔原性網膜剥離に対する水晶体再建術併用硝子体手術における、IOL マスター700 での BarretU II 式と SRKT 式の屈折誤差の比較検討

1. 研究の対象および研究対象期間

研究対象：当院にて、裂孔原性網膜剥離に対し水晶体再建術併用硝子体手術を施行した患者さん
研究対象期間：2019年1月1日から2022年5月31日

2. 研究目的・方法

研究目的：非接触型の光干渉式眼軸長測定装置で、高精度な眼軸長、角膜全屈折率が測定可能な IOL マスター700 を用いた場合の屈折誤差について、黄斑剥離の有無・眼軸長・計算式（BarretU II 式、SRKT 式）の違いにより差があるかを検討します。

研究方法：2019年1月1日から2022年5月31日の期間に昭和大学藤が丘リハビリテーション病院にて、裂孔原性網膜剥離に対し水晶体再建術併用硝子体手術を施行した患者さんを対象に、黄斑剥離の有無・眼軸長・計算式（BarretU II 式、SRKT 式）の違いによる差が屈折誤差にあたる影響を IOL マスター700 を用いて評価します。検査項目は、患者背景（性別、年齢）、術後屈折誤差（術後1・3か月）、黄斑剥離の有無、眼軸長とします。

研究期間

昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究機関の長の研究実施許可を得てから2024年3月31日までです。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

調査項目：患者さんの背景（性別、年齢）、術後屈折誤差（術後1・3か月）、黄斑剥離の有無、眼軸長

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の

連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 眼科 氏名：徳永 義郎

住所：神奈川県横浜市青葉区藤が丘 2-1-1

電話番号：045-974-2221（代表）

研究責任者：徳永 義郎